

語り継ぎたい 先人たちの熱い魂

〇〇周年記念
〇B座談会



出席者：●●●● (××××) ●●●● (××××)
●●●● (××××) ●●●● (××××)
●●●● (××××) ●●●● (××××)

諸先輩の思い出

●● この文章はダミーです。最近、1冊の分厚い本を買った。本を買うときは、だれでもがそうであるように、中身の熟読玩味である。しかし、今回手にしたいと思ったのは、その意味ではなく、この分厚な本全体が「語り下ろし」とでも言うべきか、一部を除いて、速記録であるからだ。



●● この文章はダミーです。名の通った出版社。語る人は有名人。インタビュアーは、これまたテレビなどで活躍している有名人。つまり、我々の日常の仕事である速記録とどう違うか、あるいはどん



たのである。

●● この文章はダミーです。ところが、少し大きさに言うと、せっかく買った本を「読む」のではなく、校閲者の目で「見て」いる自分に気がついた。恐らく「である」調で書かれていれば、いつものように読むことができたかもしれないが、「あります」「思います」の、まさに我々がつくる速記録であるから、ついそうなったのかもしれない。

●● この文章はダミーです。最近、1冊の分厚い本を買った。本を買うときは、だれでもがそうであ

なまとめ方をしているのか。主語と述語の関係はどうなっているか。「倒置」はどんな場合に用いるのか。速記に携わっている人間として、参考になるものがないかどうかを探りたかったのである。

るように、中身の熟読玩味である。しかし、今回手にしたいと思ったのは、その意味ではなく、この分厚な本全体が「語り下ろし」とでも言うべきか、一部を除いて、速記録であるからだ。



●● この文章はダミーです。名の通った出版社。語る人は有名人。インタビュアーは、これまたテレビなどで活躍している有名人。つまり、我々の日常の仕事である速記録とどう違うか、あるいはどんなまとめ方をしているのか。主語と述語の関係はどうなっているか。「倒置」はどんな場合に用いるのか。速記に携わっている人間として、参考になるものがないかどうかを探りたかったのである。

●● この文章はダミーです。ところが、少し大きさに言うと、せっかく買った本を「読む」のではなく、校閲者の目で「見て」いる自分に気がついた。恐らく「である」調で書かれていれば、いつものように読むことができたかもしれないが、「あります」「思います」の、まさに我々がつくる速記録であるから、ついそうなったのかもしれない。

●● この文章はダミーです。本づくりプロの完成品である。

「人事部が内部移動をやるというのであります」。この場合「内部異動」とはならないのかなあ……と不思議な気がしたが「内部」は異動ではなく「移動」なのかと、はっきりとした答えは出せなかった。

創業者の想いを未来へ

●● この文章はダミーです。「平行してA氏とB氏で詰めていた」。この場合は明らかに「並行」だろう。

「記者を撒いて裏口から出た」、辞書には「撒く」は「疎んじて避ける」とあるから、間違いではないが、用事例では、使用しないの注釈つきで「蒔、播、撒」となっているから、使ったことがない。そのため、何とも違和感が残った。

●● この文章はダミーです。同じように、新聞を見ていても、あれっ……と疑問を持つことがある。余計なお世話かもしれないが、2～3度、電話をしたことがある。

議会の記事で「先決処分した」とある。「専決」ですよと伝える。あるいは「子供の権利条約」とあったので、(1994年に)政府が批准したので固有名詞になって「子どもの権利条約」ですよと伝える。

同じ新聞でどうにも納得のいかないのが首長の立候補に当たっての経歴に「〇〇連盟評議員」とあったことだ。「評議員」はあっても「評議委員」はないと確信を持っていた。

●● この文章はダミーです。今も同じ考え方で



ある。だから「評議委員」は本当にあるのかどうか、教えていただきたいと、電話をしたら、書いた記者が今いないから、答えようがないということであった。し

かし、本人には伝えるという。時日が過ぎ、告示日になって、また同じ経歴が載った。同じく「評議委員」になっていたが、もう一度電話するのが面倒で、あのことは、新聞が間違っているのだと思うことにした。そして、この原稿を作成中のきょう、「全国市長会評議委員会」にぶつかった。そこで、全国市長会に電話で確認した。「評議員会」です、と明確に答えをいただいた。

●● この文章はダミーです。週刊誌から。「まさに絶対絶命といったところだ」とあった。これにはびっくり。別のページには「アメリカ合州国」とあって、二度びっくりだ。

●● この文章はダミーです。テレビのテロップから。『北海道・檜山市庁に大雨警報が出された』。市庁とは、市の行政事務を取り扱う役所、つまり、市役所のことである。市役所に大雨警報を出して、どうするのだろうか。道庁、都庁、県庁などの本庁に距離的な理由で行けない人のために、支庁を設けて、用が足りるようにしてある。だから、「檜山支庁」でなければいけない。その地方に警報が出たということである。